

中部山岳国立公園南部地域における利用の高付加価値化に向けた 事業者対話(サウンディング調査)の結果について

中部山岳国立公園南部地域では、令和5年8月に、「国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業」に選定されたことを受けて、当該公園の利用の高付加価値化に向けた基本構想(以下、基本構想)の検討に着手しています。

本調査は、基本構想の策定に先立ち、当該公園の宿泊事業を中心とした利用の高付加価値化に向けて、滞在体験の魅力向上につながるアイデアやご提案を広くいただくことを目的として、民間事業者の皆様との対話(サウンディング調査)を実施しましたので、その結果を公表します。

1. 実施スケジュール

公示(実施要領の公表) : 令和6年1月29日(月)

サウンディング申込期間 : 令和6年1月29日(月)～2月9日(金)

サウンディングの実施 : 令和6年2月20日(火)～22日(木)、27日(火)、3月1日

2. 参加事業者(グループ)数

宿泊事業者 : 6者

宿泊事業者以外 : 6者

合計 : 12者

3. 結果の概要(主な意見)

1) 高付加価値化に繋がる宿泊事業について

- ・富裕層をターゲットとしたホテルが必要である。富裕層をターゲットとしたホテルができることで、地域全体が引っ張られて、活性化する例は他地域でも見られる。
- ・国立公園内の宿泊事業としては、大規模施設より、小規模な施設を分散させる形の方が望ましい。小規模な宿泊施設に提供される食事やサービス、アクティビティもその地域にしかないものを提供し、地域が潤う仕組みとすることが望ましい。
- ・分散型のフレキシブルかつ上質な宿泊施設とすることで、景色の良い場所に宿泊してもらうことが大きな価値になる。その際自然への影響を最小限とすることが重要である。
- ・世界でも流れができつつあるが、サステナビリティを追求したホテルを作ることが必要である。
- ・環境をテーマにした宿泊施設、例えば、レンジャー・ガイドの拠点や、気候変動、生物多様性などの研究拠点が併設された宿泊施設があれば、環境に対する意識の高い人など世界から呼び込めるのではないかと。

2)高付加価値化に繋がる宿舎事業以外の事業について

- ・駐車場には富裕層をターゲットとする車庫を設置する等、宿泊にまつわる様々な場面での対応が必要である。
- ・富裕層向けの移動手段が必要であり、ニーズは高い。富裕層が多く払った分が登山道整備や宿泊事業者の事業環境の改善、及び捜索救難などに回る仕組みがあれば、受け入れやすいのではないか。
- ・日本の伝統工芸品は機能に優れているが、その歴史や背景、関連する建築物、道具、人等については説明してもらわないと分からない。これをツーリズムに盛り込むことも大事であるし、これを機会にリプロダクトしていくことも重要と考える。
- ・冬期の安全な移動手段、ルートがあると、中部山岳国立公園の価値が高まる。
- ・「上質な滞在・体験」を求め来訪するインバウンド需要に対応するため、地域資源の再構築や人材育成等を進めていくことが重要である。
- ・松本-高山を結ぶ Big Bridge を言葉だけでなく、実質としてつないでいくためのツールとして地域通貨は有効。

3)その他、拠点ごとの高付加価値化に向けた意見について

【上高地】

- ・年間を通じた、雇用のためには、利用の平準化が必要である。宿泊代のダイナミックプライシングの導入が必要ではないか。また、中部山岳全体で開山日を合わせる等の検討が必要ではないか。
- ・高付加価値化のためには、来訪者(歩行者)と管理車両等の歩車分離や電動化等を進めるべきである。
- ・歩車分離やガイドの問題など、上高地内の重要な根幹に関わる事項を一体的に検討できる公平性のある第三者組織が必要である。
- ・冬の上高地の景観はすばらしいため、限定的にはなると思うが、冬期利用を検討してはどうか。

【上高地周辺】

- ・上高地、さわんど温泉、乗鞍高原、白骨温泉は旧安曇村内の拠点として、一体で検討し、それぞれの機能と役割分担をはっきりさせることで、相乗効果を得て、地域活性化に繋がると思う。
- ・各拠点の役割分担を明確にし、相互に補完し合うことが地域全体の底上げにつながる。上高地には、マイカー規制など厳しい制限によって守られてきた素晴らしい景観「こそ」が価値であって「体験」をあえて造成しなくてもいいのではないか。一方、乗鞍高原は上高地ではできない「体験」の豊かなバリエーション「こそ」が価値であって「体験」の造成ができる場所として高めていけるとよい。
- ・また、拠点間の関係性という点で、上高地の入口であるさわんど温泉と平湯温泉のトライアングルエリアを磨き上げていくことが重要である。そのためには、山小屋／上高地—さわんど—平湯温泉のデジタル化を促進するためのインフラ整備が必要ではないか。

【さわんど温泉】

- ・さわんど温泉は周辺域の交通結節点、エントランスであり、インフォメーションセンターとして位置づけることで、周辺も含めた相互活性化が期待できる。乗鞍高原、さわんど温泉、上高地、山小屋の拠点地としてターミナルホテルの存在が必要ではないか。

【乗鞍高原】

- ・すばらしい自然があるので、体験・アクティビティに特化し、周辺ではできない体験を提供することで、乗鞍高原周辺における価値と魅力を向上させることができる。その価値と魅力向上のためには、富裕層をターゲットとした高級ホテルの誘致が必要ではないか。
- ・乗鞍高原は地域の独立性があるので、まずは乗鞍高原から、現在進めているゼロカーボンパークの推進のため、地域通貨を利用すると良いのではないか。

【新穂高温泉】

- ・ロープウェイを核とした周辺施設のリニューアルや、ロープウェイと連携した宿泊施設を通じて、高付加価値化を図り、ロープウェイ周辺エリアが中部山岳国立公園南部地域周遊の拠点のひとつになる仕掛けが必要である。

【松本】

- ・松本にはクラフトマンシップを持った人、様々な分野の作家が多い。これらの人々と作品を介して、外から人を呼び込める場、外から来た人と地元の間をつなげる場があると良い。
- ・松本から上高地へ観光に向かう人は多いことから、松本と上高地等をつなぐストーリーをツアーとしてまとめていけると良い。

4. 今後の予定

今後は、サウンディング結果を踏まえて、利用拠点の選定を見据え、基本構想のさらなる検討を進めていきます。

また、より具体的な事業化検討のためのサウンディング調査を令和6年夏頃に実施予定です。